

国立国語研究所学術情報リポジトリ

プロジェクトの概要

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-11-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002426

1. プロジェクトの概要

1 プロジェクトの目的

「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」は、国立国語研究所の基幹型共同研究プロジェクトとして2009年にスタートした。プロジェクトの目的は以下のとおりである。

グローバル化が進む中、世界中の少数言語が消滅の危機に瀕している。2009年2月のユネスコの発表によると、日本語方言の中では、沖縄県のほぼ全域の方言、鹿児島県の奄美方言、東京都の八丈方言が危険な状態にあるとされている。これらの危機方言は、他の方言ではすでに失われてしまった古代日本語の特徴や、他の方言とは異なる言語システムを有している場合が多く、一地域の方言研究だけでなく、歴史言語学、一般言語学の面でも高い価値を持っている。また、これらの方言では、小さな集落ごとに方言が違っている場合が多く、バリエーションがどのように形成されたか、という点でも注目される。

本プロジェクトでは、フィールドワークに実績を持つ全国の研究者を組織して、これら危機方言の調査を行い、その特徴を明らかにすると同時に、言語の多様性形成のプロセスや言語の一般特性の解明にあたる。また、方言を映像や音声で記録・保存し、それらを一般公開することにより、危機方言の記録・保存・普及を行う。

2 研究方法

消滅危機方言の調査は緊急を要する。そのため、フィールド調査に実績を持つ国内外の研究者を組織化し、調査研究を効率的に進める必要がある。また、質の高いデータを残すために、これまで、必ずしも統一的でなかった方言（言語）の調査方法や記述方法に統一性を持たせる必要がある。さらに、将来の方言（言語）研究を担う若手研究者の育成も必要である。以上を踏まえて、本プロジェクトでは次の2種類の調査をベースとして研究を進めている。

- (1) 共同研究者が各自のフィールドで行う各地点調査研究
- (2) 共同研究者が一同に会して行う合同調査研究

(1) はそれぞれの共同研究者がそれぞれのフィールドで行う調査研究で、共同研究者はその成果をプロジェクトの共同研究発表会で発表し、自分の調査研究を発展させるきっかけとしている（共同研究発表会では、若手研究者の研究を支援するために、共同研究者以

外の若手研究者が発表を行うこともある)。

(2) は調査地点を定め、その地点の音声・アクセント・文法・基礎語彙・談話等を総合的に記述する調査である。この調査には、共同研究者だけでなくポスドク、学振特別研究員、大学院生といった若手研究者も参加し、参加者が共同で調査・データ整理・報告書の作成を行っている。第1回目の合同調査は、2010年9月に鹿児島県喜界島で実施した。本書はその報告書である。

3 共同研究者

本プロジェクトの共同研究者は、以下のとおりである(2011年7月30日現在)。

ウエイン・ローレンス(オークランド大学)、上野善道(国立国語研究所客員)、大西拓一郎(国立国語研究所)、金田章宏(千葉大学)、狩俣繁久(琉球大学/国立国語研究所客員)、久保智之(九州大学)、窪菌晴夫(国立国語研究所)、下地賀代子(沖縄国際大学)、下地理則(群馬県立女子大学/国立国語研究所客員)、田窪行則(京都大学/国立国語研究所客員)、竹田晃子(国立国語研究所・プロジェクト非常勤研究員)、ダニエル・ロング(首都大学東京)、中島由美(一橋大学)、仲原穰(琉球大学)、西岡敏(沖縄国際大学)、新田哲夫(金沢大学)、又吉里美(志学館大学)、松本泰丈、松森晶子(日本女子大学/国立国語研究所客員)、三井はるみ(国立国語研究所)(五十音順)